

教育関連記事

エデュサン
edu sun

9

2026 / No.130



ファームステイで鹿に餌をあげる子どもたち。自然と触れ合い、仲間と協力する大切さを学んだ
(写真提供：ニューヨーク育英学園)

発行／DAILYSUN NEW YORK LLC 1270 Avenue of the Americas, 7th Floor, New York, NY 10020

TEL : 929-946-0182 WEB : www.dailysunny.com E-MAIL : info@dailysunny.com

1. 教育レポート

- ◆ 在外教育シンポジウム「NYからはじまる これからの日本人学校・補習授業校のあり方」を開催
ニューヨーク育英学園
- ◆ 1・2年生、ファームステイを実施ー自然の中で仲間と過ごし、大きく成長した2日間ー
ニューヨーク育英学園
- ◆ 本場ブロードウェイを体感！慶應義塾ニューヨーク学院の「シアター・デー」
慶應義塾ニューヨーク学院

2. NY 教育関連ニュース

- ◆ アメリカで外国留学生のインターンを厳しく制限、“出稼ぎ”排除とアメリカ人労働者の保護が目的
- ◆ NY州、高校卒業に「リージェンツ試験」合格不要へ 2028年から卒業要件を大幅変更
- ◆ アメリカの留学生「滞在4年上限」が施行直前でストップ、従来の滞在ルールを当面維持
- ◆ NY市の公立校、「市全体の人種構成」を反映する学校はわずか2%未満 NYUが分析
- ◆ NY州の性教育、大丈夫？3分の1以上の学区で教材に“誤情報”古いデータ使用も



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

在外教育シンポジウム「NYからはじまるこれからの日本人学校・補習授業校のあり方」を共催

NY 育英学園

9月13日（日）、マンハッタンの日本クラブで、在外教育シンポジウム「NYからはじまるこれからの日本人学校・補習授業校のあり方」が開かれました。主催は日本クラブ、共催は海外子女教育振興財団・ニューヨーク日本人教育審議会・ニューヨーク育英学園、後援は JCC FUND です。

会場には保護者や教育関係者、企業関係者など 64 名が集まり、海外で学ぶ子どもたちにこれから何が必要なのかをめぐって、2 時間半にわたる議論が交わされました。



基調講演に立った片平聡在ニューヨーク総領事・大使

日 時： 2026 年 9 月 13 日（日） 10:00 - 12:30

会 場： 日本クラブ（604 5th Ave, New York, NY 10020）

主 催： 日本クラブ

共 催： 海外子女教育振興財団 × ニューヨーク日本人教育審議会 × ニューヨーク育英学園

後 援： JCC FUND

終了後： DAILY SUN New York にて軽食・ネットワーキング（12:30 - 14:30）



全体の進行を務めた久保純子さん

司会は久保純子さん

司会・モデレーターには、幼児教育に関心の深い元 NHK アナウンサーの久保純子さんをお招きしました。

基調講演から 2 本のパネルディスカッションまでを通して進行いただき、登壇者の発言を論点ごとに整理しながら、議論を前へ進めていただきました。

パネル① 海外ならではの日本教育とは？

3 校の代表が、それぞれの現場から、海外という場所だからこそできる学びについて語りました。



ニューヨーク日本人学校
校長 森本 恵作



ニュージャージー補習授業校
校長 小堤 紀子



ニューヨーク育英学園
理事長兼学園長 武田 秀俊

パネル② 地域教育エコシステムが果たす役割とは？

続くパネル②では、学校の外にある「学びの場」を、ニューヨークという地域全体でどう設計していくかが論じられました。副題のとおり、海外子女教育振興財団の綿引宏行 理事長による基調提起が、このパネルの起点となりました。

| 片平 聡 在ニューヨーク総領事・大使

| 綿引 宏行 海外子女教育振興財団 理事長

| 熊倉 俊彦 NY 日本商工会議所 副会頭／サントリーアメリカ
プレジデント

| 駒村 圭吾 慶應義塾ニューヨーク学院 学院長

| 武田 秀俊 ニューヨーク育英学園 理事長兼学園長



提言について語る海外子女教育振興財団の綿引宏行 理事長

綿引理事長は、教育を三つの層で捉えたうえで、その真ん中にあたる「メゾ」—— 学校と社会をつなぐ層に焦点を当てました。世界各地の在外教育施設を横断して見てきた立場から、この層がもっとも手薄であること、そして「ではニューヨーク全体でそれを設計できるか、誰がその設計図を描くのか」という問いを、提言の結びとして会場に投げかけました。

パネル②の 80 分は、綿引理事長が示した次の 5 つの問いを順にたどる形で進みました。

1. AI 時代に学校が育てるべき「人間らしさ」とは
2. ニューヨークという都市だからこそ実現できる教育文化とは
3. 企業は CSR ではなく「教育の共同経営者」になれるか
4. 学校の外にある「学び」の場を、ニューヨーク全体でどうデザインできるか
5. 20 年後「ニューヨークで育ったから世界で活躍できた」と語られるために、いま何を始めるべきか



五つの問いをたどったパネル②



議論に聞き入る参加者のみなさん



閉会の言葉を述べる稲垣 恭子 理事・副学長

閉会の言葉とネットワーキング

閉会の言葉は、京都大学 理事・副学長の稲垣恭子さんが述べました。

シンポジウム終了後は、会場から徒歩 5 分の DAILYSUN New York に場所を移し、軽食を交えたネットワーキングが行われました。登壇者と参加者が入りまじって話し込む姿が、閉会後もしばらく続きました。

1・2年生、ファームステイを実施

NY 育英学園

2026.9.10-11

9月10日、11日の2日間、ニューヨーク育英学園全日制1・2年生の移動教室「ファームステイ」を実施した。子どもたちは普段の学校生活を離れ、自然豊かな農場で仲間とともに1泊2日の宿泊生活を体験した。今回のファームステイでは、「すすんで仕事に取り組む」「仲間と協力する」「自分のことは自分でする」「困っている人がいたら声をかける」ことを大切な目標として活動した。

農場に到着した子どもたちを待っていたのは、学校ではなかなか経験することのできない、動物や自然と直に触れ合う活動の数々だった。鹿に餌をあげたり、鶏を腕に抱いてその温もりを感じたり、牛の乳しぼりに挑戦したりと、初めての体験の連続に子どもたちは目を輝かせた。最初は緊張した表情を見せていた子も、次第に動物との距離を縮め、友達と声を掛け合いながら積極的に活動する姿が見られた。

夕食では、屋外でBBQを楽しんだ。とうもろこしを焼く活動にも子どもたち自身が関わり、農場ならではの食の体験を満喫した。その後の「夕べのつどい」では、仲間と焚き火を囲んでマシュマロを焼くなど、楽しいひとときを過ごした。自然に囲まれた静けさの中、友達と火を眺めながら語り合った時間は、子どもたちにとって心に残る特別な思い出となった。

ファームステイの大きな学びの一つは、家族と離れ、自分たちの力で生活することにある。翌朝は6時30分に起床。自分で身支度を整えて荷物を整理した後、「おしごと体験」に取り組んだ。普段は家族に手伝ってもらうことも、この2日間にはできる限り自分の力でいった。自分のことだけでなく、困っている友達に声を掛けたり互いに助け合ったりする姿も随所で見られ、仲間と協力して生活する経験そのものが大きな学びとなった。

動物に触れ、自然を感じ、自分たちで仕事をし、仲間と食事や寝食を共にした2日間。教室の中だけでは得られない多くの学びを通し、自ら考えて行動することや、友達を思いやる大切さを実感した。学校へ戻ってきた子どもたちの表情には確かな自信が満ちており、仲間と乗り越えた経験は、子どもたちを一回りたくましく成長させる貴重な機会となった。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園)



鶏を持ち上げる児童



自分で収穫したとうもろこしをBBQで食べる

本場ブロードウェイを体感！「シアター・デー」

慶應義塾ニューヨーク学院

2026. 9. 30

芸術の秋を迎えた9月30日、ニューヨーク学院恒例の「シアター・デー」が開催されました。9年生から12年生まで、学年ごとにマンハッタンのブロードウェイへ出かけ、12年生は『Schmigadoon!』、11年生は『Hedestown』、10年生は『& Juliet』、9年生は『MJ』を鑑賞しました。

12年生が鑑賞した『Schmigadoon!』では、幸運にも主演2名がトニー賞受賞時のオリジナル・キャストとして出演。華やかな歌とダンス、テンポのよいユーモアに客席から何度も笑い声や拍手が起こり、約2時間半のショーもあったという間に感じられました。11年生の『Hedestown』では、印象的な音楽と力強いパフォーマンスに引き込まれ、ギリシャ神話を題材にした物語を現代的な舞台表現で楽しみました。10年生の『& Juliet』では、誰もが耳にしたことのある90年代のヒット曲と迫力あるダンスに加え、人気ボーイズグループNSYNCのメンバーとして知られるJoey Fatoneさんがランス役を演じていたこともあり、劇場全体が大いに盛り上がりました。9年生の『MJ』では、『Billie Jean』や『Thriller』などの名曲と圧巻のダンスパフォーマンスに、生徒たちも大きな刺激を受け、ブロードウェイならではの迫力を存分に味わいました。

普段から英語で学び、生活している生徒たちにとって、ブロードウェイで英語のミュージカルを実際に観ることは、教室で学ぶ言語を文化や表現と結びつけて体験する貴重な機会です。

公演後のバスでは、「あの場面が印象に残った」「あの曲がよかった」と感想を語り合ったり、撮影した写真を見せ合ったりする姿もありました。友人と感動を共有しながら、ニューヨークという恵まれた環境ならではの学びと交流を深めた一日となりました。

文化都市ニューヨークで、日々の授業だけでは得られない本物の文化や芸術に触れることができるのも、ニューヨーク学院で学ぶ魅力の一つです。今回の「シアター・デー」は、生徒たちの高校生活にまた一つ、心に残る思い出を刻む機会となりました。(情報・写真提供：慶應義塾ニューヨーク学院)



『Schmigadoon!』を鑑賞した12年生



『& Juliet』を鑑賞した10年生



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



今回の措置は、トランプ政権が進める留学生および外国人労働者への一連の締め付け政策の一環とみられる。写真はイメージ (photo: Unsplash / Help Stay)

アメリカで外国留学生のインターンを厳しく制限 “出稼ぎ”排除とアメリカ人労働者の保護が目的 2026. 9. 1

トランプ政権はこのほど、外国人留学生が在学中にインターンなどを行う CPT (Curricular Practical Training) の要件を厳格化し、今後は専攻との関連性だけでなく「卒業に必要な実習」であることを原則として義務付ける方針を発表した。ウォール・ストリート・ジャーナルが 8 月 28 日、伝えた。

「専攻に関連」だけでは許可せず

CPT は、F-1 ビザを保持する外国人留学生が在学中に専攻に関連するインターンシップや実習などを行うための制度。大学の許可を得ることで、学外で実務経験を得られる。これまでも CPT は専攻と関連する実習であることが前提だったが、卒業に必須でなくてもインターンに関連する授業を履修し、単位を取得することで CPT が認められるケースもあった。

今回の変更で重要なのは、インターンが「専攻と関係しているか」ではなく、「卒業に必要なか」という点だ。米国土安全保障省 (DHS) 傘下の学生・交流訪問者プログラム (SEVP) が 8 月 24 日に示した新指針では、CPT を利用する実習は、その学位プログラムの必須カリキュラムであることを求めている。

例えば、経営学を専攻する留学生がマーケティング会社でインターンをする場合、専攻に直接関係していても、そのインターンが卒業に必要な実習でなければ CPT の対象にならない可能性がある。選択科目としてインターンの単位を取得するだけでは認められない。

“出稼ぎ”排除などが目的

新しい指針の目的は、F-1 ビザを悪用した「実質的な就労 (出稼ぎ)」や「ルールの抜け道」の排除、およびアメリカ人労働者の雇用の保護だ。

[続きはウェブへ](#)



2028 年 1 月以降は、ほかの卒業要件を満たせば、リージェンツ試験に合格しなくても高校を卒業できる見通し。写真はイメージ (photo: Unsplash / Bunly Hort)

NY 州、高校卒業に「リージェンツ試験」合格不要へ 2028 年から卒業要件を大幅変更

2026. 9. 17

ニューヨーク州教育局の資料によると、州教育委員会 (Board of Regents) は 9 月 14 日、リージェンツ試験の合格を高校卒業の条件から外す方針を承認した。規則改正を経て、2028 年 1 月以降の卒業生には、卒業のために複数のリージェンツ試験に合格することを求めない計画だ。

リージェンツ試験とは

リージェンツ試験は、ニューヨーク州の高校生を対象とする州統一試験。英語、数学、理科、社会などがあり、授業で学んだ内容の理解度を測る。1990 年代半ば以降、州内の高校を卒業するには、原則として複数の試験に合格する必要があった。

2028 年 1 月卒業生から適用

新制度は 2028 年 1 月以降の卒業生から適用される予定で、2027 年 6 月に卒業する現在の高校 3 年生は、原則として現行制度の対象となる。リージェンツ試験そのものを直ちに廃止するわけではなく、州の学習基準への到達度を測る試験としては残る見通しだ。今回見直されるのは、試験の合格を卒業証書取得の条件とする仕組みだ。

なぜ制度を見直すのか

州教育局は、リージェンツ試験は各科目の学力を測るもので、卒業に必要な力を総合的に判断する試験ではないとしている。英語学習者や障害のある生徒、経済的に厳しい家庭の生徒には、卒業の壁になりやすいとの指摘もある。今後は授業での評価や教師の観察などを組み合わせ、各学区や学校が評価方法を決める。卒業証書も複数の種類から 1 種類に統一する方針だ。

[続きはウェブへ](#)



多くの留学生が学ぶハーバード大学ロースクールのランデル・ホール (photo: Unsplash / Emily Karakis)

アメリカの留学生「滞在4年上限」が施行直前でストップ 従来の滞在ルールを当面維持

2026. 9. 21

留学生らのアメリカ滞在期間を制限する新規則について、米連邦裁判所は9月14日、全国での施行を一時差し止めた。規則は9月15日に発効する予定だったが、従来の「在留資格期間 (Duration of Status)」方式が当面維持される。タイムズ・ユニオンが報じた。

滞在期間を最長4年に制限

新規則は、F-1ビザの留学生とJ-1ビザの交換訪問者の滞在期間を最長4年とする内容だった。博士課程などで4年を超えて滞在中の場合は、米市民権・移民局 (USCIS) に延長を申請するか、いったん出国して再入国する必要があった。Iビザを持つ報道関係者も、滞在期間が原則240日までに制限される予定だった。転校や専攻変更にも新たな制限が設けられ、留学生や大学からは、手続きの負担や学業への影響を心配する声が上がっていた。

従来のD/S方式を当面維持

現在のD/S方式では、留学生は在籍を続け、在留資格の条件を守っている限り、学業期間中の滞在が認められる。今回の差し止めにより、滞在が4年を超えるという理由だけで、USCISに延長を申請する必要はない。裁判所は、4年の上限を設けることが、不正防止や安全保障上の問題の解決にどうつながるのか、政府が十分に説明していないと指摘した。

ただし、今回の決定は最終判決ではなく、訴訟が続く間、新規則の施行を一時的に止めるものだ。今後、政府が控訴する可能性もある。



高層ビルと低層の建物が混在するニューヨークの街並み。写真はイメージ（Photo: Unsplash / Dinesh Boaz）

NY市の公立校、「市全体の人種構成」を反映する学校はわずか2%未満 NYUが分析

2026. 9.24

ニューヨーク市の公立小・中学校のうち、市全体の人種構成をおおむね反映している学校は2%未満にとどまることが、ニューヨーク大学（NYU）の研究機関による最新分析で明らかになった。

市全体と近い構成の学校はごくわずか

調査対象は、幼稚園から8年生までの児童・生徒が通う従来型の公立校1061校で、チャータースクールなどは含まれていない。市全体の構成は、ヒスパニック系42%、アジア系21%、白人17%、黒人16%。各人種の割合が市全体と10ポイント以内の学校を「市全体の構成を反映している」としたところ、該当したのは2%未満だった。学校がある地域の人種構成を反映していた割合は、小学校25%、中学校37%、幼稚園から8年生までが通う学校では22%だった。ただし、地域そのものが特定の人種に偏っている場合もあり、数字が高くても人種的に多様な学校とは限らないという。

学校選択制度も分離に影響

黒人やヒスパニック系の児童・生徒は、白人やアジア系に比べ、居住地によって指定された学校に通う割合が低く、チャータースクールを選ぶ割合が高かった。NYUは、学校選択制度も人種分離を強める一因と分析している。ただ、その影響よりも、過去のレッドライニング（人種を理由に特定地域への融資を制限した差別的な慣行）から続く住宅地の分離や、住所をもとに定められる通学区域の影響の方が大きいとしている。

ニューヨーク市教育局は現在、5つの学区に作業部会を設け、人種的に多様な学校づくりに向けた対策を検討している。



写真はイメージ (photo: Unsplash / Sam Balye)

NY 州の性教育、大丈夫？ 3 分の 1 以上の学区で教材に “ 誤情報 ” 古いデータ使用も

2026. 9. 30

ニューヨーク州の学校で使われる性教育の教材に、医学的に不正確な情報や、避妊・性感染症予防などの説明不足があることが分かった。ニューヨーク自由人権協会（NYCLU）が 9 月 23 日、州内 50 学区から提供された教材を分析した報告書を公表した。調査は都市部、郊外、農村部を対象とし、学区によって教育内容に大きな差があると指摘している。

3 分の 1 以上の学区で教材に誤り

報告書によると、50 学区のうち 18 学区の教材に、医学的な誤りや誤解を招く説明があった。1995 年の資料や 2002 年の HIV・エイズのデータを使ったものもあり、2012 年に誤りを指摘された教材が、今回も提出された。

また、結婚前に性行為をすると、将来の夫婦関係に悪い影響が出ると教え、後悔や罪悪感を強調する教材もあった。一方で、お互いを大切にする関係や、交際相手からの暴力、性暴力について具体的に教える例も紹介されている。

「性行為を控える」ことが中心

29 学区の教材は、性行為を控えることを中心に教え、避妊や性感染症を防ぐ方法の説明が少なかった。このうち 10 学区では、ほぼ「性行為をしない」という内容に限られていた。相手の同意を確かめることや、避妊、性的少数者（LGBTQ+）について、十分に教えていない例もあった。NYCLU は、性行為を避けるよう教えるだけでなく、自分の体や相手との関係について考え、判断するための知識も必要だとしている。

[続きはウェブへ](#)

supported by



edu sun